

講義中心

プログラム番号 2902C

大人数講義のコツ

■講師

小林 直人（愛媛大学 学長特別補佐、教育・学生支援機構 教育企画室長、医学部 総合医学教育センター長 教授）

昭和 63 年 3 月東京大学医学部医学科卒、平成 7 年東京大学にて博士（医学）の学位取得。平成 17 年度より愛媛大学医学部教授、平成 21 年度より愛媛大学教育・学生支援機構副機構長と教育企画室長を兼任。教育担当理事（教育・学生支援機構長）のもと、大学全体のFDをミクロ・レベルからマクロ・レベルまで幅広く担当。平成 27 年度より愛媛大学学長特別補佐（教育企画、能力開発）を兼任。

■プログラム概要

「よい講義」をここでは、聞き手の学生にとって分かりやすく、知的な緊張感があり、さらに学生が参加する（した気にさせる）講義、ということにしておきます。大人数での講義にはデメリットも多いのが事実ですが、現在の高等教育の実情を考えればこのような授業形態は不可欠です。大講義室でも学生とコミュニケーションを取る方法、学生を積極的に講義に参加させる方法や学習効果を高める方法など、大人数の学生を聴衆とした「よい講義」をするために気をつけておくべき授業スキルを、実例や実習を通して習得することができます。

また昨今の高等教育に強く求められている参加体験型授業/アクティブラーニング型授業の一例として、受講者に実際にグループワークを体験していただきます。講義を受け持つようになって間もない教員の方はもちろん、自分の講義を振り返りたいと思われる方、また職員の方々も是非受講してください。

この研修では、参加者の皆さんが日頃実践している工夫も披露して頂きます。ご自分の経験（失敗談も歓迎です！）や他で見聞きした実践例を共有しましょう。きっと、明日の授業に役立つヒントが見つかります。

■主な受講対象

まだ講義経験がないか数年未満の講義経験しかない教員の方を歓迎します。また、学務系の職員の方にとっては、大学の講義に今求められていることについて考えるよい機会になると思います。

■本プログラムの到達目標

1. 学生にとってよい講義とはどのようなものかを具体的に説明できる。
2. 自分の経験に基づいて、大人数講義のメリットとデメリットを列挙することができる。
3. 「学生中心の大学」の実現のためによい講義ができるようになる。
4. 大講義室ならではの様々な授業スキルを、実際の体験を通して習得し自分の授業に生かすことができる。

■日時・場所

日時：平成 30 年 8 月 29 日（水）13：00～15：00

場所：香川大学幸町北キャンパス